

下記は、7月18日(アメリカ東部時間)に発表されたプレスリリースの翻訳です。

シティ、2008年第2四半期の決算を発表
継続事業における純損失は22億ドル、一株当たり損失は0.49ドル

純損失の25億ドル、一株当たり損失の0.54ドルは、
債券の評価損及び北米における個人向け与信費用の増加が主因

評価損の減少及び中核の事業基盤の強固さによる前四半期比大幅な改善

本年の人員削減、2四半期連続の費用減少及び非中核・不採算資産等(レガシー・アセット)の削減を含め、短期目標の達成に向け前進

強化された資本及び貸倒引当金

2008年7月18日ニューヨーク発：シティグループ・インク(NYSE:C)は本日、2008年第2四半期の決算は純損失25億ドル、発行済株式数5,287百万株¹の一株当たり損失0.54ドルと発表しました。中核の事業基盤における堅実な業績は、評価損及び与信費用により相殺されました。業績には、証券および銀行業務における72億ドルの評価損(税引き前)が含まれています(11ページの付表Cを参照してください)。また、主として北米の個人向け銀行業務部門及びグローバル・カード部門に起因して、与信費用が45億ドル増加しました。

第2四半期のハイライト

- ・ 評価損の減少及び中核の事業基盤における好調な業績により、2008年第1四半期に比較して業績は大幅に改善。
- ・ 総資産は、2008年第1四半期末比で990億ドル減少。その約3分の2は非中核・不採算資産等(レガシー・アセット)の減少。
- ・ 非戦略的事業の売却は予定通りに進行。シティキャピタル、ダイナースクラブ・インターナショナル及びシティストリートの取引を発表。
- ・ 資本ポジションはTier 1資本比率8.7%にまで改善。貸出金、リース及び未実行貸出約定に関する引当金合計は220億ドルに増加。
- ・ リエンジニアリングへの取組みにより、前四半期に引き続き人員削減及び経費削減を達成。
- ・ 人員を2008年第2四半期において約6,000名、同年上半期において約11,000名削減。
- ・ 利ざや(正味利息マージン)は、2008年第1四半期に比べ34ベース・ポイント上昇して3.18%に。
- ・ 新規人員の強化による人材の増強。

当社は、2008年7月11日、ドイツのリテールバンキング部門の売却を発表しました。これにより、取引完了時に約40億ドルの利益(税引き後)が生じることが見込まれています。この取引により、第2四半期のTier 1資本比率がプロフォーマで約60ベース・ポイント増加することが予想されます。

経営陣のコメント

「シティは中核の事業基盤の強みを継続的に発揮し、第2四半期における損失を第1四半期比で半減させました。与信費用は第1四半期から20%増加しましたが、証券および銀行業務における評価損は42%減少しました。また、人員及び経費は前四半期比で減少しています。なすべきことはまだ沢山ありますが、私たちはシティのリエンジニアリングへのコミットメントを果たす事において、少しずつ実を結んでいることに勇気づけられています。」とシティの最高経営責任者、ビクラム・パンディットは述べています。

「資本及びバランスシートの効率性を改善する取組みのひとつとして、当四半期中に非中核・不採算資産等(レガシー・アセット)を大幅に削減しました。当社は、最近、シティストリートの売却を完了し、また先週の金曜日には、ドイツのリテールバンキング部門を相当な利益を得て売却することを発表しました。当社は、世界的に活躍するリーダーたちをシティに迎え入れ、また現在の人材を強化することにより最強のチームを構築することに注力し続けます。すべての地域における顧客との関係および、進行中の戦略的目標へのコミットメントに鮮明に焦点を当てることと相俟って、当社の収益力の今後の原動力となることでしょう。」とパンディットは述べています。

¹ 完全希薄化後株式数は 5,800 百万株

シティの業績

単位: 百万ドル(一株当たり利益を除く)	第2四半期収益		%	第2四半期純利益		%
	2008	2007	増減	2008	2007	増減
グローバル・カード部門	\$5,468	\$5,325	3%	\$467	\$1,057	(56)%
グローバル・カード(管理対象)	7,484	6,323	18			
個人向け銀行業務部門	7,889	7,808	1	(700)	1,473	NM
インスティテューショナル・クライアント・グループ	2,939	10,261	(71)	(2,044)	3,384	NM
グローバル・ウェルス・マネジメント部門	3,315	3,197	4	405	512	(21)
本社事項/その他	(959)	(261)	NM	(345)	(283)	(22)
継続事業からのシティ合計	\$18,652	\$26,330	(29)%	\$(2,217)	\$6,143	NM
非継続事業				(278)	83	NM
シティ合計				\$(2,495)	\$6,226	NM
北米	\$7,731	\$13,989	(45)%	\$(3,317)	\$3,397	NM
ヨーロッパ・中東・アフリカ	3,841	4,749	(19)	15	992	(98)
ラテンアメリカ	3,444	3,063	12	658	787	(16)
アジア	4,595	4,790	(4)	772	1,250	(38)
本社事項/その他	(959)	(261)	NM	(345)	(283)	(22)
継続事業からのシティ合計	\$18,652	\$26,330	(29)%	\$(2,217)	\$6,143	NM
非継続事業				(278)	83	NM
シティ合計				\$(2,495)	\$6,226	NM
継続事業からの一株当たり利益				\$(0.49)	\$1.23	NM
一株当たり利益				\$(0.54)	\$1.24	NM

NM: 意味を持たない。

第2四半期の概要

- **収益**は29%減少し、187億ドルとなりました。これは、主として、証券および銀行業務の債券市場におけるサブプライム関連の直接的エクスポージャーについて引き続き評価損が発生したこと及びモノライン保険会社に対するエクスポージャーに関する与信評価を下方修正したことによるものです。その他の業務においては収益は安定的に推移しました。利ざや(正味利息マージン)は2008年第1四半期に比べて34ベース・ポイント上昇し、3.18%となりました。
 - グローバル・カード部門のGAAP収益は3%増加しました。これは、北米以外において取扱高及び平均貸出高が二桁台の成長を示したことによるものですが、北米における証券化の実績の低下により一部相殺されました。
 - グローバル・カード部門の管理収益は18%増加しましたが、これは、平均管理貸出金残高の11%の増加及び管理正味利息マージンの改善によるものです。
 - 個人向け銀行業務部門の収益は1%増加しました。これは、貸出金及び預金の力強い成長によるものですが、資産運用商品の売上の減少により一部相殺されました。収益はまた、北米における抵当貸付サービシング権(以下「MSR」といいます。)資産及び関連ヘッジの時価評価による745百万ドルの純損失による影響も受けています。
 - インスティテューショナル・クライアント・グループにおいて、証券および銀行業務の収益は、信用市場に関連する大幅な評価損及び損失により、94%減少し539百万ドルとなりました。これには、サブプライム関連の直接的エクスポージャーに関する34億ドルの評価損(詳細については、10ページの付表Bを参照してください。)、モノライン保険会社に対するエクスポージャーに関する与信評価の24億ドルの下方修正、商業用不動産ポジションについての545百万ドルの評価損、並びに高レバレッジ・ファイナンス・コミットメントの実行分及び未実行分に関する評価損428百万ドル(引受手数料控除後)が含まれます。
 - トランザクション・サービスの収益は30%増加し、記録的な24億ドルとなりました。これは、顧客債務残高が15%、管理資産が13%それぞれ増加し、強力な成長を示したことによるものです。

- グローバル・ウェルズ・マネジメント部門の収益は、銀行業務及び貸出業務の力強い収益によって、4%増加しましたが、特にアジアにおけるキャピタル・マーケットの減速により、一部相殺されました。業績は日興コーディアルグループの完全な所有を反映しています。
- **営業費用**は9%増加し、159億ドルとなりました。これは主として、446百万ドルのリポジショニング費用及び前年同期に計上した訴訟関連引当金の300百万ドルの戻入れが当四半期はなかったことによるものです。経費の増加には最近の買収の効果も反映されています。リエンジニアリングへの取組みによる効果が継続したことにより、経費は2四半期連続の減少となりました。
- **与信費用**は72億ドルとなりましたが、これは主に、44億ドルの正味貸倒損失及び貸倒引当金を積み増すための25億ドルの正味繰入れにより構成されています。正味貸倒損失は、主に北米における住宅用不動産向け貸付及びグローバル・カード部門に起因して、24億ドル増加しました。貸倒引当金を積み増すために20億ドルの正味繰入れの追加計上されたのは、主に北米における住宅用不動産によるものです。
- **税金**: 継続事業の実効税率は、前年同期の29.8%に対して当四半期は52.2%でした。税率の上昇は、主として損失が発生した地域の税率が増加したことによります。
- **資本ポジション**: 当四半期においてシティは、49億ドルの普通株式及び80億ドルの優先株式を発行することにより、その資本ポジションをさらに充実させました。当四半期末現在におけるTier 1資本比率は、8.7%となりました。

グローバル・カード部門

(単位: 百万ドル)	第2四半期収益		%	第2四半期純利益		%
	2008	2007		2008	2007	
北米	\$2,928	\$3,298	(11)%	\$178	\$711	(75)%
ヨーロッパ・中東・アフリカ	652	506	29	19	53	(64)
ラテンアメリカ	1,229	990	24	165	184	(10)
アジア	659	531	24	105	109	(4)
グローバル・カード部門合計	\$5,468	\$5,325	3%	\$467	\$1,057	(56)%

(単位: 百万ドル)	第2四半期収益		%
	2008	2007	
北米の GAAP 収益	\$2,928	\$3,298	(11)%
証券化業務の影響	2,016	998	
北米の管理収益	\$4,944	\$4,296	15%

● 収益

- グローバル・カード部門の GAAP 収益は 3% 増加しました。これは、北米以外における取扱高及び平均貸出高の二桁台の成長、並びにポートフォリオの売却による 170 百万ドルの税引前利益が、北米における証券化の実績の低下により一部相殺されたことによるものです。
- グローバル・カード部門の管理収益は 18% 増加しました。これは、平均管理貸出金残高の 11% の増加及び管理正味利息マージンの改善によるものです。
- 北米では、GAAP 収益は 11% 減少しました。これは、資金調達コストの増加及び証券化信託の貸倒損失の増加の影響を主に反映して、証券化収益が減少したことによるものです。
- 北米の管理収益は、15% 増加しました。これは、平均管理貸出金残高の 6% の増加、管理正味利息マージンの改善、及びポートフォリオの売却による 170 百万ドルの税引前利益によるものです。平均管理貸出金残高の増加は、旅行、ビジネス及びリテールパートナーのポートフォリオを要因とするものです。取扱高は、ガス及び食品等の生活必需品の消費の増加が、裁量的消費の減少により相殺されたため、前年同期と比べ横ばいでした。管理正味利息マージンは、28 ベーシス・ポイント上昇し、10.56% となりました。これは主として、プロモーション対象外の残高及びリボルビングの残高がともに増加したことによるものですが、資金調達費用の増加により一部相殺されました。
- ヨーロッパ・中東・アフリカでは、収益は 29% 増加しました。これは主として、取扱高が 27%、平均貸出金残高が 42% それぞれ増加したことのほか、ダイナースクラブ・インターナショナルの売却益の一部によるものです。

- ラテンアメリカでは、収益は24%増加しましたが、これは主として、取扱高が29%、平均貸出金残高が26%それぞれ増加したことによるものです。業績には、グルポ・カスカトランの買収の影響が含まれています。
- アジアでは、収益は24%増加しました。これは主として、取扱高が21%、平均貸出金残高が27%それぞれ増加したことのほか、買収の影響及びダイナースクラブ・インターナショナルの売却益の一部によるものです。
- **経費**
 - 経費は、顧客取引高の増加、与信管理費用の増加及び最近の買収の影響により、9%増加しました。
- **与信費用**
 - 北米では、与信費用は345百万ドル増加しました。これは、正味貸倒損失が51%増加し、貸倒引当金を積み増すための111百万ドルの正味繰入れを追加計上したためです。与信費用が増加したのは、主な信用関連指標の悪化、マクロ経済環境のトレンド(住宅市場の低迷、燃料費の高騰及び失業の上昇傾向を含みます。)並びに破産申立ての増加のほか、延滞顧客が回収不能に至る比率が引き続き増加したことを反映しています。管理正味貸倒損失率は202ベース・ポイント上昇して6.53%となりました。
 - ヨーロッパ・中東・アフリカでは、主として正味貸倒損失の増加(84百万ドル)により、与信費用は61%増加しました。正味貸倒損失の増加は、主としてエッグの買収及び顧客取引高の増加によるものです。
 - ラテンアメリカでは、正味貸倒損失が2倍以上に増加したため、与信費用は60%増加しました。正味貸倒損失の増加は、顧客取引高の増加並びにメキシコ及びブラジルにおける貸倒及び延滞債権の増加によるものです。正味貸倒損失率は457ベース・ポイント上昇して11.41%となりました。
 - アジアでは、与信費用は76%増加しました。これは、顧客取引高の増加、主としてインドに起因する正味貸倒損失の28%の増加、貸倒引当金を積み増すための49百万ドルの正味繰入れの追加計上を反映したものです。
- **純利益**
 - 純利益の減少は、北米における証券化収益の減少及び世界的な与信費用の大幅な増加を反映しています。

個人向け銀行業務部門

(単位:百万ドル)	第2四半期収益		%	第2四半期純利益		%
	2008	2007		2008	2007	
北米	\$4,124	\$4,224	(2)%	\$(951)	\$891	NM
ヨーロッパ・中東・アフリカ	1,296	1,113	16	65	89	(27)
ラテンアメリカ	1,038	996	4	76	183	(58)
アジア	1,431	1,475	(3)	110	310	(65)
個人向け銀行業務部門合計	\$7,889	\$7,808	1%	\$(700)	\$1,473	NM

NM:意味を持たない。

収益は1%増加しました。これは、平均貸出金残高が9%、平均預金残高が8%それぞれ増加したものの、資産運用商品の販売の20%の減少、日本における消費者金融事業の収益の49%(169百万ドル)の減少並びに北米におけるMSR資産及び関連ヘッジの時価評価による745百万ドルの純損失により相殺されたことが要因です。経費は12%増加しました。これは主に、顧客取引高の増加、与信管理費用の増加、130百万ドルのリポジショニング費用及び買収によるものです。与信費用は30億ドル増加しました。これは、北米及びメキシコにおける大幅な正味貸倒損失の増加並びに主に北米における貸倒引当金を積み増すための16億ドルの正味繰入れの追加計上によるものです。

- **北米**
 - 収益は2%減少しました。これは主に、MSR資産及び関連ヘッジの時価評価による745百万ドルの純損失によるものです。MSR資産及び関連ヘッジの影響を除くと、収益は14%の増加となります。費用の増加は、主に92百万ドルのリポジショニング費用、与信管理費用の増加及び買収によるものです。
 - 与信費用は26億ドル増加しました。これは、正味貸倒損失の11億ドルの増加及び貸倒引当金を積み増すための15億ドルの正味繰入れの追加計上が要因です。与信費用の増加は、第1順位及び第2順位抵当貸付け、無担保個人向けローン及び自動車ローンの延滞の増加を含む主な信用関連指標の悪化を反映しています。与信費用は、住宅市場の低迷を含むマクロ経済環境のトレンドも反映しています。正味貸倒損失率は、146ベース・ポイント上昇して

2.33%になりました。与信費用の増加並びに MSR 資産及び関連ヘッジの時価評価による純損失により、951 百万ドルの純損失となりました。

● **ヨーロッパ・中東・アフリカ**

- 収益は 16%増加しました。これは、平均貸出金残高が 18%、平均預金残高が 19%それぞれ増加したこと、及び利ざや(正味利息マージン)が改善したことによります。
- 与信費用は 44%増加しました。これは、正味貸倒損失の 29%の増加及び貸倒引当金を積み増すための 31 百万ドルの正味繰入れの追加計上を反映しています。与信費用の増加は、一定の先進国におけるマクロ経済指標の若干の悪化を反映しています。純利益は主に与信費用の増加により 27%減少しました。

● **ラテンアメリカ**

- 収益は 4%増加しました。これは、平均貸出金残高が 19%、平均預金残高が 8%それぞれ増加したものの、前年同期に計上した資産売却益がなかったことにより一部相殺されたことによるものです。
- 与信費用は 150 百万ドル増加しました。これは、主に当四半期における貸倒の増加及び前年同期のメキシコにおける債権回収がなかったことによるものです。大幅な与信費用の増加により、純利益は 58%減少しました。

● **アジア**

- 日本の消費者金融事業において、収益は 49% (169 百万ドル)減少しました。これは、受取利息の減少及び過払金返還請求の増加によるものです。業績は、ポートフォリオ抑制に伴い平均貸出金残高が減少したこと及び正味貸倒損失率が増加したことも反映しています。154 百万ドルの純損失は、厳しい事業環境及び 2006 年第 4 四半期中に成立した消費者金融関連法の影響が継続していることを反映しています。
- 日本の消費者金融事業を除くと、収益は 11%増加しました。これは、平均貸出金残高が 14%、平均預金残高が 10%それぞれ増加したものの、アジア全体の株式市場の低迷により資産運用商品の販売が 30%減少したことにより一部相殺されたことによるものです。与信費用は、大幅に増加しました。これは、正味貸倒損失の 84%の増加及び貸倒引当金を積み増すための 101 百万ドルの正味繰入れの追加計上によるものです。与信費用の増加は、特に、費用削減及び損失軽減のため積極的に事業の見直しを行っているインドにおいて、無担保ローンポートフォリオにおける貸倒及び延滞が増加したことによります。与信費用の増加により、純利益は 25%減少しました。

インスティテューショナル・クライアント・グループ

(単位:百万ドル)	第 2 四半期収益		%	第 2 四半期純利益		%
	2008	2007		2008	2007	
北米	\$(2,244)	\$3,655	NM	\$(2,904)	\$1,409	NM
ヨーロッパ・中東・アフリカ	871	2,313	(62)	(327)	631	NM
ラテンアメリカ	707	724	(2)	260	301	(14)
アジア	1,205	1,722	(30)	226	527	(57)
証券および銀行業務	\$539	\$8,414	(94)%	\$(2,745)	\$2,868	NM
北米	\$496	\$371	34%	\$51	\$52	(2)%
ヨーロッパ・中東・アフリカ	869	680	28	238	173	38
ラテンアメリカ	368	261	41	142	90	58
アジア	667	535	25	270	201	34
トランザクション・サービス	\$2,400	\$1,847	30%	\$701	\$516	36%
インスティテューショナル・クライアント・グループ	\$2,939	\$10,261	(71)%	\$(2,044)	\$3,384	NM

NM: 意味を持たない。

● **証券および銀行業務**

- 証券および銀行業務の収益は、記録的な昨年第 2 四半期と比べ 94%減少し、539 百万ドルとなりました。これは、債券市場及び信用市場に関連する大幅な評価損及び損失によるものです。収益には、公正価値オプションが選択された

負債の市場価値の決定にあたりシティの信用スプレッドを反映させたことに関連する228百万ドルのマイナスの影響が含まれます。

- 債券市場業務の収益は、633百万ドルの赤字となりました。これには、以下の要因が反映されています。
 - サブプライム関連の直接的エクスポージャーに関する34億ドルの評価損。2008年3月31日における当該エクスポージャーとしては、貸出及びストラクチャリング業務に係る総エクスポージャーが約64億ドル、またABS CDOスーパー・シニアに係る正味のエクスポージャーが約227億ドル（ABS CDOスーパー・シニアに係る総エクスポージャーは約332億ドル）ありました。2008年6月30日における当該エクスポージャーとしては、貸出及びストラクチャリング業務に係る総エクスポージャーが約43億ドル、またABS CDOスーパー・シニアに係る正味のエクスポージャーが約181億ドル（ABS CDOスーパー・シニアに係る総エクスポージャーは約279億ドル）ありました。詳細については、10ページの付表Bを参照してください。
 - モノライン保険会社に対するエクスポージャーに関する与信評価の下方修正24億ドル。
 - 商業用不動産ポジションについての545百万ドルの評価損。
 - Alt-A 抵当貸付けについての325百万ドルの評価損（ヘッジ控除後）。
 - 収益の赤字は、金利及び為替取引並びにコモディティにおける記録的な収益により一部相殺されました。収益にはさらに、保有オークションレート証券に関する197百万ドルの利益が含まれます。
- 株式市場業務の収益は12%減少し、14億ドルとなりました。北米でのプライム・ブローカー及びキャッシュビジネスにおける収益の記録的な増加が、世界中のデリバティブ及び転換社債の低迷により相殺されました。
- 貸出業務の収益は81%減少し、95百万ドルとなりました。これは、主にクレジット・デフォルト・スワップのヘッジによる損失の増加が、高レバレッジ・ファイナンス・コミットメントの実行分及び未実行分の正味回収額158百万ドル（引受手数料控除後）により一部相殺されたことによるものです。
- 投資銀行業務の純収益は69%減少し、453百万ドルとなりました。
 - アドバイザリー業務の収益は、引き続き厳しい市場状況を反映して、3%減少し、386百万ドルとなりました。シティは、2008年度の第2四半期及び2008年度の上半期において、世界中で公表されたM&A及び債券・株式の引受けに関し、第2位となりました。
 - 株式引受業務の収益は、記録的な昨年第2四半期から4%減少し、518百万ドルとなりました。
 - 債券引受業務の収益は、277百万ドルの赤字となりました。これは、主として高レバレッジ・ファイナンス・コミットメントに関する585百万ドルの純評価損によるものです。
- 北米の業績には債券市場及び信用市場に関連する評価損及び損失が反映されています。ヨーロッパ・中東・アフリカの収益は62%減少しました。これは、主に高レバレッジ・ファイナンス・コミットメントの評価損によるものです。ヨーロッパ・中東・アフリカでの収益はさらに、現地市場における販売及びトレーディングの好調な業績も反映しています。これは、主に顧客取引の収益の増加及びトレーディングにおける力強い実績によるものです。アジアの業績には、力強い顧客の動向がある一方で、株式市場及び信用市場での自己勘定トレーディング業務における収益の減少が反映されています。
- 経費は6%増加しました。これは、257百万ドルのリポジショニング費用と、前年同期に計上された300百万ドルの訴訟関連引当金の戻入れが当四半期はなかったことが要因です。経費の増加には、最近の買収の影響も反映されていますが、報酬費用の減少により一部相殺されました。
- 与信費用は、主に貸付債権の売却に関連する正味貸倒損失の386百万ドルの増加を反映して、大きく増加しました。与信費用の増加は、貸倒引当金を積み増すための227百万ドルの正味繰入れの追加計上も要因であり、これは法人向けローンポートフォリオにおける貸倒の主な指標の若干の悪化を反映しています。

● トランザクション・サービス

- 収益は30%増加し、記録的な24億ドルとなりました。これは、すべての地域における二桁台の収益の伸びを反映しています。対顧客取引高は引き続き増加し、債務残高は15%、管理資産は13%増加しました。
 - トレジャー及びトレード・ソリューションズ(TTS)の収益は29%増加しました。これは債務の増加と、トレード・ローンの利回りの上昇によるものです。証券サービスは31%改善しました。これは取引高の増加とバイシスの買収の影響が要因です。
 - 北米の収益の増加は主にバイシスの買収によるものです。ヨーロッパ・中東・アフリカでは、債務残高が25%増加し1,100億ドルという記録的な数字となったことに伴い、収益が28%増加しました。ラテンアメリカの

収益は41%増加しました。これは、TTSの債務とスプレッドが増加したことを反映しています。アジアの収益は、25%増加しました。これはTTS及び証券サービスにおける二桁台の成長を反映しています。

- 経費は22%増加しました。これは、主に投資支出及び顧客取引高の増加並びにバイシスの買収が要因です。与信費用は24百万ドル増加しました。これは主として、正味貸倒損失が特にアジアにおいて増加し、貸倒引当金を積み増すための16百万ドルの正味繰入れを追加計上したことによるものです。純利益は、ヨーロッパ・中東・アフリカ、アジア及びラテンアメリカにおける二桁台成長に伴い、36%増加し、701百万ドルとなりました。

グローバル・ウェルス・マネジメント部門

(単位:百万ドル)	第2四半期収益			%	第2四半期純利益			%
	2008	2007	増減		2008	2007	増減	
北米	\$2,427	\$2,441	(1)%	\$309	\$334	(7)%		
ヨーロッパ・中東・アフリカ	153	137	12	20	46	(57)		
ラテンアメリカ	102	92	11	15	29	(48)		
アジア	633	527	20	61	103	(41)		
グローバル・ウェルス・マネジメント部門	\$3,315	\$3,197	4%	\$405	\$512	(21)%		

- グローバル・ウェルス・マネジメント部門の収益は4%増加しました。これは、ヨーロッパ・中東・アフリカ、ラテンアメリカ及びアジアでの二桁台の成長が、北米での収益の減少により一部相殺されたことによるものです。平均預金残高は12%、平均貸出金残高は27%それぞれ増加し、手数料ベースの運用顧客資産残高は8%減少しました。なお、業績には日興コーディアルグループの完全な所有が含まれています。
 - 北米の収益の減少は、投資の減少及びキャピタル・マーケットの収入の減少によるものです。これは、貸出及び銀行業務の収益の増加により一部相殺されています。ヨーロッパ・中東・アフリカの収益の増加は、銀行業務の収益の増加によるものです。ラテンアメリカでの収益の増加は、キャピタル・マーケットの収益の増加が要因でした。アジアの収益の増加は、日興コーディアルグループの完全な所有を反映していますが、キャピタル・マーケットの大幅な減益により一部相殺されました。
- 経費の増加は、日興コーディアルグループの完全な所有の影響が反映されています。与信費用は28百万ドル増加しました。これは、北米、ヨーロッパ・中東・アフリカ及びラテンアメリカにおいて、貸倒引当金を積み増すための29百万ドルの正味繰入れを追加計上したことによります。純利益は21%減少しました。これは、与信費用が増加したこと、及び前年同期に計上された、一定の外国子会社に対するAPB 23の適用開始による65百万ドルの税務便益が当四半期はなかったことによります。

本社事項/その他

本社事項/その他の収益は、大幅に減少し959百万ドルの赤字となりました。これは、主に最近の増資とシティキャピタルの売却に関連した会社間取引の費用によるものです。さらに、主として繰延税金資産の増加、ヘッジ及び流動性ポジションの増加に関連する資金調達費用の増加も、収益の減少の要因となりました。収益の減少は、本社についての税額の減少により一部相殺されました。

非GAAPの財務情報の調整は、本プレスリリースの13ページに記載されています。

シティは、約 2 億の顧客口座を有し、世界 100 カ国以上に展開する世界有数のグローバルな金融機関です。顧客、企業、政府及び機関投資家を対象として、個人向け銀行業務、消費者金融、法人・投資銀行業務、証券業務、資産管理の分野において、幅広い金融商品やサービスを提供しています。シティの主要なブランドには、シティバンク、シティ・フィナンシャル、プライメリカ、スミス・バーニー、バナメックス及び日興が含まれます。詳しくは、www.citigroup.comまたは www.citi.comをご覧ください。

追加の財務、統計および業務関連の情報並びに業務およびセグメントのトレンドに関してはフィナンシャル・サプPLEMENT (Financial Supplement) に含まれています。本発表及びフィナンシャル・サプPLEMENTはシティのウェブサイト(www.citigroup.comまたは www.citi.com)にて入手することができます。

本書には、米国民事証券訴訟改革法に定める「将来の見通しに関する記述」が含まれています。こうした記述は、経営陣の現在の予測に基づくものであり、不確実要素や状況の変化により影響を受けます。様々な要因により、実際に生じる結果は、こうした記述に含まれる情報と大きく異なる可能性があります。これらの要因に関するより詳細な情報は、シティグループが米国証券取引委員会に提出する文書中に記載されます。

本発表に関する日本国内の連絡先:

シティグループ・インク代理人

長島・大野・常松法律事務所

弁護士 杉本文秀

電話:03-3511-6133(直通)

付表 A

地域別業績

(単位:百万ドル)	第 2 四半期収益			第 2 四半期純利益		
	2008	2007	% 増減	2008	2007	% 増減
グローバル・カード部門	\$2,928	\$3,298	(11)%	\$178	\$711	(75)%
個人向け銀行業務部門	4,124	4,224	(2)	(951)	891	NM
インスティテューショナル・クライアント・グループ	(1,748)	4,026	NM	(2,853)	1,461	NM
グローバル・ウェルス・マネジメント部門	2,427	2,441	(1)	309	334	(7)
北米	\$7,731	\$13,989	(45)%	\$(3,317)	\$3,397	NM
グローバル・カード部門	\$652	\$506	29%	\$19	\$53	(64)%
個人向け銀行業務部門	1,296	1,113	16	65	89	(27)
インスティテューショナル・クライアント・グループ	1,740	2,993	(42)	(89)	804	NM
グローバル・ウェルス・マネジメント部門	153	137	12	20	46	(57)
ヨーロッパ・中東・アフリカ	\$3,841	\$4,749	(19)%	\$15	\$992	(98)%
グローバル・カード部門	\$1,229	\$990	24%	\$165	\$184	(10)%
個人向け銀行業務部門	1,038	996	4	76	183	(58)
インスティテューショナル・クライアント・グループ	1,075	985	9	402	391	3
グローバル・ウェルス・マネジメント部門	102	92	11	15	29	(48)
ラテンアメリカ	\$3,444	\$3,063	12%	\$658	\$787	(16)%
グローバル・カード部門	\$659	\$531	24%	\$105	\$109	(4)%
個人向け銀行業務部門	1,431	1,475	(3)	110	310	(65)
インスティテューショナル・クライアント・グループ	1,872	2,257	(17)	496	728	(32)
グローバル・ウェルス・マネジメント部門	633	527	20	61	103	(41)
アジア	\$4,595	\$4,790	(4)%	\$772	\$1,250	(38)%
本社事項/その他	(959)	(261)	NM	(345)	(283)	(22)
継続事業からのシティ合計	\$18,652	\$26,330	(29)%	\$(2,217)	\$6,143	NM
非継続事業				(278)	83	NM
シティ合計				\$(2,495)	\$6,226	NM

NM: 意味を持たない。

付表B

証券および銀行業務におけるサブプライム関連の直接的エクスポージャー

以下の表は、証券および銀行業務におけるシティのサブプライム関連の直接的エクスポージャー(CDO スーパー・シニアに係るエクスポージャー並びに貸出及びストラクチャリング業務におけるエクスポージャーにより構成)を示したものであります。

	2008年3月31日 エクスポージャー	2008年 第 2 四半期 評価損 ⁽¹⁾	2008年 第 2 四半期 売却/移転/リストラクチャリング/ 清算/返済 ⁽²⁾	2008年6月30日 エクスポージャー
<i>(単位:10 億ドル)</i>				
直接的 ABS CDO スーパー・シニア・エクスポージャー:				
ABS CDO スーパー・シニアに係る 総エクスポージャー	\$33.2			\$27.9
ヘッジド・エクスポージャー	10.5			9.8
ABS CDO スーパー・シニアに係る 正味のエクスポージャー:				
ABCP ⁽³⁾	\$16.8	\$(2.0)	\$(0.4)	\$14.4
ハイグレード	3.8	(1.3) ⁽⁴⁾	(0.5)	2.0
メザニン	2.0	0.1 ⁽⁴⁾	(0.5)	1.6
ABS CDO スクエアード	0.1	0.0	(0.0)	0.2
ABS CDO スーパー・シニアに係る 正味のエクスポージャー合計	\$22.7	\$(3.2)	\$(1.5)	\$18.1
貸出及びストラクチャリング業務におけるエクスポージャー:				
一時保有の CDO/ABS CDO の 未販売トランシェ	\$0.2	\$(0.0)	\$(0.1)	\$0.1
転売又は証券化目的で購入された サブプライム・ローン	3.6	(0.3)	(0.6)	2.8
サブプライムにより担保された ファイナンス取引	2.6	(0.1) ⁽⁴⁾	(1.0)	1.5
貸出及びストラクチャリング業務におけるエクスポージャー合計	\$6.4	\$(0.3)	\$(1.7)	\$4.3
エクスポージャー合計⁽⁵⁾	\$29.1	\$(3.5)	\$(3.2)	\$22.5
ヘッジ・カウンターパーティ・エクスポージャーに係る 与信評価の調整 ⁽⁶⁾		\$(2.4)		
正味評価損合計		\$(5.9)		

(1) 清算に伴う損失を含みます。

(2) 2つのCDOの清算に伴い原資産である有価証券の一部が買い取られ、トレーディング・ブック上で管理・売却が行われています。2008年6月30日現在、当該有価証券319百万ドルがトレーディング・ブック上で保管されています。

(3) 過去のハイグレードのABS CDOを含みます。

(4) 与信費用に計上された合計80百万ドルも含まれます。

(5) CDO スーパー・シニアに係る正味のエクスポージャー並びに貸出及びストラクチャリング業務におけるエクスポージャーの総額によって構成されます。

(6) FAS 157による調整はカウンターパーティ・与信リスクに関連するものです。

シティのCDO スーパー・シニアに係るサブプライム関連の直接的エクスポージャーは、清算に関連する損失を除き、観察可能な取引を基礎とした評価ではなく、内在的なキャッシュフロー分析を基礎とした評価に服しています。第2四半期において、見込額算定のための数値は市場の動向を反映するために修正されています。かかる分析方法では、将来4年間に關する住宅価格の調整見込み、失業率、利率やその変動率を含むマクロ経済ファクター、並びに、貸付の性格(例えば貸付期間、与信スコア、契約等の作成状況、ローン・トゥー・バリュー(LTV)比率及びデット・トゥー・インカム(DTI)比率)を含むミクロ経済ファクターの両方を考慮に入れています。加えて、かかる分析では、抵当担保の地域的集中の影響、サブプライム抵当担保の組成に關し報告されている詐欺行為の予想される影響や各段階におけるエクスポージャーに適用される割引率を考慮に入れています。

CDO スーパー・シニアに係るエクスポージャーの公正価値の見込額は市場状況によって異なり、将来のさらなる変化に服するものです。また、シティはかかるエクスポージャー評価に使われる分析方法が合理的であると信じておりますが、かかる分析方法は、将来の市場環境の変化等に応じて継続的に改善されていくものです。さらにいくつかあるいは全てのかかるエクスポージャーに關する観察可能な取引が将来行われた場合、見込額に代えて、かかる観察可能な取引が公正価格の決定に使われる可能性があります。

ほとんどの貸出及びストラクチャリング業務における直接的サブプライムエクスポージャーは観察可能な取引及びその他の市場データを基礎とした公正価格です。このエクスポージャーの大半はレベル3資産に分類されます。

証券および銀行業務においては、米国のサブプライム住宅抵当証券(RMBS)及び関連商品(例えばABS CDO)に關する、トレーディングに關するショート、ロングの両ポジションを持っておりますが、それらは上記の数値には入っておりません。かかるポジションに關するエクスポージャーは積極的に管理され、またヘッジされておりますが、使用されているヘッジ商品の有効性は市場環境の重要な変化によって変わってくる可能性があります。

付表 C

証券および銀行業務の開示項目の概要

(単位:10 億ドル)

サブプライム関連の直接的エクスポージャーの評価損	\$(3.5)
モノライン保険会社のエクスポージャーに関する与信評価の下方修正	(2.4)
商業用不動産ポジションの評価損	(0.5)
高レバレッジ・ファイナンス・コミットメントの評価損	(0.4)
Alt-A 抵当貸付けの評価損(ヘッジ控除後)	(0.3)
公正価値オプションによるシティの負債の時価会計	(0.2)
保有オークションレート証券に関する利益	0.2
合計	\$(7.2)

注記:四捨五入により、合計欄は必ずしも上記の値の総計ではありません。

付表 D

プレスリリース開示項目の概要(単位:百万ドル)

証券および銀行業務におけるサブプライム関連の直接的エクスポージャーについては、付表 B をご参照下さい。

2008年第2四半期(単位:百万ドル)	税引き前効果	税引き後効果	損益計算書の項目	事業部門/地域
カード・ポートフォリオの売却	\$170	\$107	収益	グローバル・カード部門/北米
リポジショニング費用	\$446	\$275	費用	シティ全体
2007年第2四半期(単位:百万ドル)	税引き前効果	税引き後効果	損益計算書の項目	事業部門/地域
訴訟引当金の戻入れ	\$300	\$188	費用	証券および銀行業務/ 北米
一定の外国子会社へのAPB23の適用開始 に関連する税務便益		\$96	税金	証券および銀行業務及びグローバル・ウェルズ・マネジメント部門/ ヨーロッパ・中東・アフリカ、ラテンアメリカ、アジア

非 GAAP 財務指標

下記は、米国証券取引委員会 (SEC) 規則の「非 GAAP 財務指標」として考慮される指標です。

- 1) グローバル・カード部門の収益は管理ベースとなっています。
- 2) 北米個人向け銀行業務部門の収益は、MSR 資産及び関連ヘッジによる影響を除外しています。
- 3) アジア個人向け銀行業務部門の収益は、日本の消費者金融事業を除外しています。
- 4) アジア個人向け銀行業務部門の純利益は、日本の消費者金融事業を除外しています。

当社は、これらの非 GAAP 財務指標は、現在の業務のより深い理解を提供し、前期間におけるこれらの結果との比較可能性を高め、また、当四半期における特別の利益や費用の影響を示すものであると考えます。当社は、その業績の意義ある分析のためには業績の背後にあるファクターの理解が欠かせないものであると考えます。当社は、当社の業績の基本的なトレンドを不明確化する可能性のある特別な項目の影響を除いた業績を分析するため、投資家の皆様にとって非 GAAP 財務指標をご覧頂くことが有用であるものと考えております。

上記 GAAP 財務指標から非 GAAP 財務指標への調整は下記のとおりです。

	2008 年 第 2 四半期	2007 年 第 2 四半期	2008 年第 2 四半期と 2007 年第 2 四半期の増 減比較 (%)
<i>(単位: 百万ドル)</i>			
GAAP 基準のグローバル・カード部門収益	\$5,468	\$5,325	3%
証券化業務による影響を除く	2,016	998	
非 GAAP 基準のグローバル・カード部門収益	\$7,484	\$6,323	18%
GAAP 基準の北米個人向け銀行業務部門収益	\$4,124	\$4,224	(2)%
MSR 資産及び関連するヘッジの影響を除く	745	58	
非 GAAP 基準の北米個人向け銀行業務部門収益	\$4,869	\$4,282	14%
GAAP 基準のアジア個人向け銀行業務部門収益	\$1,431	\$1,475	(3)%
日本の消費者金融事業の収益を除く	(176)	(345)	
非 GAAP 基準のアジア個人向け銀行業務部門収益	\$1,255	\$1,130	11%
GAAP 基準のアジア個人向け銀行業務部門純利益	\$110	\$310	(65)%
日本の消費者金融事業の純利益を除く	154	40	
非 GAAP 基準のアジア個人向け銀行業務部門純利益	\$264	\$350	(25)%